採算性の精査方針（案）

平成２０、２１年度の調査結果に対する事業採択に向けた国の指摘や採算性の検討を踏まえ、需要予測の精査及び駅部の別事業化等の検討など、国との事前協議等を実施して、事業化に向けた採算性を精査する。

◇ 平成 20,21 年度調査結果**（参考資料２参照）**

・需要予測：51,200 人

・建設費：420 億円

・採算性：地下鉄補助事業で 40 年償還が可能

【国の指摘】

・現況再現性をチェックする。
・マイカー、徒歩からは実際はなかなか転換しない。
・開発人口は厳しめに見る。
・ゾーニングの検証。
・関係者で十分に見極めて欲しい。
・事業採択にあたっては厳しめに評価する。

採算性の検討

【需要予測の問題点】

・開発に伴う需要が過多
・自動車からの転換量が過多
・バス路線の再編を前提とした需要

【採算性の確保】

・3 種事業者の償還額を削減　等

需要予測の精査

・自動車・徒歩からの転換の精査
・箕面市の交通体系マスタープランでとりまとめる、バス路線網の考え方を踏まえた、駅端末交通手段のサービスレベルの見直し
・実際の人口定着等を考慮した開発人口の精査 等

駅部等に新たな事業スキーム導入の検討

・都市交通ｼｽﾃﾑ整備事業(都市局：国費 1/3)

・社会資本整備総合交付金事業
(大臣官房：国費 55%)
等

需要予測等の精査（国との事前協議）
新たな事業スキーム等の検討（国への提案）